

新 玉

眞宮起雲

瑠璃の扉にわけのいろ榮えはのくくと河面かけて
初日はのぼる

天つ女がとしはぎ歌の譜に合せ五十鈴かはみつせ
ゝらぎゝよき

かきぞめに題するひとの一人なくて淋しことしも
野に果てん哉

河の瀬に若水汲むと詩にやせしわがおもわにもゑ
みふくまるゝ

繪ぎぬのべて御題うつさん窓ちかくはつ日うらゝ
に梅香奇しき

詩に榮えむのぞみのいろか初わけのくれなゐなが
る河波のあや

ゆく水に年の光りのほのめきてわが大はしま永久
にきよかれ

* * * *

短歌募集

▲課題 随意▲べ切 毎月末日

▲發表 本誌上▲賞品 三光に粗景

▲選評 眞宮起雲

▲投稿 用紙随意左記の處に送らるべし

但添削返稿は往復葉書又は印紙封入の事

伊勢國白子局區内みとり短歌會

わが世 (秀逸)

○ 飯塚 曉霞

われにかへり涙拂ふてみあぐれば片われ月のいま

おちんとす

くちづさむ我がうたふるびわれやせぬかくて我世

の暮れ杲ん哉

○ 八重子

秋のあめ細うふる夜をともなくしづかにかもふ
あめつちの歌

○ 伊藤芳江

額ふして祈りさゝぐるわさわけや靈の香はなつし
らぎくのはな

○ 金丸錦川

あしの花白うふけたる霜の夜を名しらぬ鳥のきた
に鳴きすぐ

○ 志雅子

許しませこの身はやせてさまよひの塵のちまたに

うたもだになき

○ ○ ○ ○ ○

フレーベル會俳句端書集

一、課題 當季雜吟一人十句以下

一、締切 毎月二十五日限り

一、披露 翌々月本誌上

一、賞品 三光には繪はがきを呈す

一、撰者 當分本會の撰とす

一、投稿 本誌 購讀者は何人にも投吟する事

を得用紙は繪葉書に限り（眞筆刷物隨

意）住所氏名雅號を明記し必らず左の

名宛にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛